

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	在宅介護支援 つくしんぼ【放課後等デイサービス】		
○保護者評価実施期間	2026年3月1日		2026年3月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		2026年3月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1. 家庭的な環境と衛生管理	古い建物ながらも清掃・消毒を徹底し、実家のような落ち着く空間を維持しています。	1. 施設内の視覚的公開 室内写真の掲示や動画配信等を通じ、普段見えにくい活動環境をより積極的に公開します。
2	2. 特性に寄り添った個別支援	面談や絵カードを活用し、お子様の自己選択・自己決定を尊重する支援を行っています。	2. 専門性の客観的評価 標準化されたアセスメントツールの活用と職員研修を強化し、根拠に基づく支援を深めます。
3	3. 迅速な情報共有	LINE Works等のデジタルツールを活用し、学校や保護者様との密な連携を図っています。	3. 保護者交流の機会創出 ご要望の多い「保護者交流会」の企画を進め、ご家族同士の繋がりを支援します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1. スペースの物理的制約	雨天時や利用人数が多い際に、室内が手狭に感じられることがあります。	1. ゾーニングと外遊びの活用 天候に応じた柔軟なスケジュール調整と、コーナー分けの徹底により空間を有効活用します。
2	2. 地域交流・外部評価の不足	地域住民を招く行事や、第三者による外部評価の受審がまだ十分ではありません。	2. 地域連携と外部評価の検討 児童発達支援センターとの連携を深めるとともに、第三者評価の受審について計画的に検討します。
3	3. 構造化のさらなる追求	片付けや動線など、お子様がより直感的に理解できる環境設定(構造化)に改善の余地があります。	3. 環境の構造化推進 視覚的スケジュールや、片付け場所の明確な表示など、構造化の質を高める工夫を導入します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	在宅介護支援つくしんぼ【放課後等デイサービス】
------	-------------------------

公表日 2026年3月31日

利用児童数 2026年3月28日

回収数 19

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	94.7%	5.3%	0.0%	0.0%	・室内は狭いように思います。玄関に雨除けの屋根があると職員の方との会話がしやすいと思います。 ・外での遊びも含めると活動するには十分だと思います。	天候が良い日は外遊びを積極的に取り入れ、室内の密度を下げてのびのびと過ごせる環境を整えます。雨天時には傘の差し掛けなどの工夫を行い、保護者様の負担軽減に努めます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	73.7%	10.5%	0.0%	15.8%	・何人体制で何人の子どもの顔をみているか分からないでもう5人くらいの方が負担や休みも取りやすくていいのではないかと思います。子供相手は色々と疲れるかと思うので。	デジタルツールを活用し、連携を強化して迅速なフォロー体制に努めます。アセスメントの内部研修を通じて職員間の共通理解を深め、高い個別支援計画を目指します。さらに、求人活動にも力を入れ優秀な職員の確保に努めます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	57.9%	15.8%	0.0%	26.3%	・あまり施設内に入ったことがないので、設備などはわかりません。 ・施設内を細かく内覧した事がない、わからない。	「施設内の様子が分かりにくい」とのご意見に対し、今後は玄関付近への室内写真の掲示や、マチコミを活用した施設紹介を検討していきたいと思えます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	78.9%	5.3%	0.0%	15.8%	・古い建物ながらも、掃除や消毒もなされているので、問題ないと思う ・少し古さは感じますが実家のような落ち着く雰囲気が良いと思います	建物は古いながらも、「実家のような安心感」との評価を大切に、今後も清掃と消毒を徹底して清潔な環境を維持します。
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	78.9%	0.0%	0.0%	21.1%	・専門性はわからないが、子どもたちの特性を理解して、対応してくれていると思う ・職員の方が年齢に合わせて問題点などを教えて下さり、それに対しての支援方法なども話し合えて助かっています	温かいお言葉をいただき感謝申し上げます。お子様一人ひとりの特性に寄り添い、保護者様と共に歩む支援を大切にしております。今後も年齢や発達に応じた丁寧な共有と、最適なサポートに努めてまいります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	89.5%	5.3%	0.0%	5.3%	・あまり職員さんと接する機会がないのでよくわかりません。	職員との接点が少ないとのこと、申し訳ございません。短い時間でもお子様の様子を丁寧に伝えてできるよう努めるとともに、お電話や面談など、気軽に相談いただける体制を整えてまいります。
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	89.5%	10.5%	0.0%	0.0%		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	94.7%	0.0%	0.0%	5.3%	・家庭と施設でうまく情報共有が出来ていると思います	日頃より密な情報共有にご協力いただき、心より感謝申し上げます。ご家庭での様子を伺うことは、適切な支援を行う上で何よりの助けとなります。今後も連携を絶やせず、お子様の成長を見守ってまいります。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	89.5%	10.5%	0.0%	0.0%	・これも職員さんにあまり接する機会がないので連絡帳を見る限りよくわかりません。	連絡帳を通じた情報共有にご満足いただけない現状を真摯に受け止め、内容の充実を図ります。また、気になる点はいつでもお電話等でご相談いただけるよう、職員間の連携を強化してまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	89.5%	5.3%	0.0%	5.3%	・毎回違うプログラムに参加させてもらっている ・家では難しい外遊びなども積極的に行ってくださりありがとうございます(自転車、プール)	様々なプログラムを楽しんでいただき嬉しく思います。これからは、お子様が主体的にワクワクして過ごせる環境づくりに、職員一同努めてまいります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	26.3%	15.8%	26.3%	31.6%	・学祭で関わる程度かと思う ・近所に同年代の子はいるが、発達の違いから交流の機会確保を検討課題として取り組んでまいります。お子様の特性に配慮しながら、社会との接点を少しずつ増やしていきけるよう努めます。	現在の交流は限定的ですが、ご指摘を踏まえ、地域交流の機会確保を検討課題として取り組んでまいります。お子様の特性に配慮しながら、社会との接点を少しずつ増やしていきけるよう努めます。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	94.7%	0.0%	0.0%	5.3%		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100.0%					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	42.1%	15.8%	15.8%	26.3%	・お話しはなかったと思う	れまでは感染症対策等の観点から集団での研修を控えておりました。今後は、日々の迅速な情報共有に加え、ご家族のニーズに応じた勉強会などの機会を定期的に設けられるよう体制を整えてまいります。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	89.5%	10.5%	0.0%	0.0%	・連絡帳を活用して行っている ・1人の職員さんは連絡帳に色々な事を書いて様子をお知らせしてくれますが、他の職員さんはいつも同じことしか書いてないと思います。 ・面談はありますが、助言的なことはあまりないかもしれません。	連絡帳への記述に関するご指摘をありがとうございます。今後は職員間での情報共有と記録スキルの上を回り改善に努めます。迅速かつ丁寧な情報共有に努め、ご家庭との連携を深めてまいります。助言の不足についてのご指摘を真摯に受け止め、今後は、より質の高いフィードバックと具体的な支援提案を行えるよう体制に努めます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	94.7%	5.3%	0.0%	0.0%		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・とても親身になっていただいて、安心して預けられます	お子様の状態に合わせた環境整備や、迅速な情報共有を徹底することで、安心をお届けできるよう努めております。これからはお子様と保護者様に寄り添った、親身な支援を大切にしていきたいです。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	21.1%	15.8%	42.1%	21.1%	・我が家が参加してないだけかもしれませんが ・学校の送り迎えで会える時は、挨拶程度はするが、交流までには至らない。PTA役員の保護者とは、関わりがまだある。	これまでは安全面を考慮し交流機会を制限しておりましたが、ご指摘の通り家族支援・きょうだい支援の重要性を再認識しております。今後は環境の構造化やスペースの有効活用を進め、保護者様同士やご家族が交流できる機会を段階的に設けていけるよう改善を図ります。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	89.5%	5.3%	0.0%	5.3%		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	84.2%	5.3%	0.0%	10.5%	・マチコミで写真を配信してくれるのが嬉しいです	写真配信を通じた情報共有へのご評価に感謝申し上げます。今後も迅速な連絡体制を維持しつつ、ホームページ等の活用をさらに進め、お客様の様子や事業所の取り組みが伝わる体制を整えてまいります
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	89.5%	0.0%	0.0%	10.5%		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	63.2%	5.3%	0.0%	31.6%		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	73.7%	10.5%	0.0%	15.8%		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	63.2%	5.3%	0.0%	31.6%		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	78.9%	10.5%	0.0%	10.5%	・対応した職員さんによっては保護者に連絡がこないときがあり、子供が何気なく言った事にびっくりしたことがあります。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	94.7%	5.3%	0.0%	0.0%	・他の用事があっても利用したい意志がありません。いつもありがとうございます ・頼りにされ生き甲斐を感じています	お子様の通所への意欲や、頼りにしていただいているとの評価ありがとうございます。お子様の状態に合わせ柔軟な対応と居場所づくりを継続し、『通いたい』と思って頂ける魅力的なプログラムと安心できる環境の提供に、職員一同尽力してまいります
	29	事業所の支援に満足していますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・いつもありがとうございます ・当人を理解してなおかつ頼りにされているので利用使用価値が高い評価を本人がしています	職員一同大きな励みとなります。個々の状態に合わせた柔軟な環境整備と、職員間の一貫した支援体制を維持し、今後も『自分らしく、頼りにされる居場所』であり続けられるよう、邁進してまいります

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		在宅介護支援 つくしんぼ【放課後等デイサービス】				公表日	2026年 3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境 ・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		玩具ごとに遊ぶ場所を離すなどの工夫をしている。また、室内だけでなく外で遊べる場を設けることで、スペースの制約をカバーしている。	人数が多い日や雨の日などは、室内が狭いと感じることがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員が不足する際は、他部署から応援を受ける体制を整えている。	子どもの人数や状態に対し、さらに目の行き届いた支援ができるよう、人員配置の充実に努める必要がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		トイレや手洗い場を使いやすく工夫し、視覚的支援（掲示等）も取り入れている。活動内容に応じて室内と外遊びに分かれることで、個々の要望に応えている。	片付けの際、子どもがより理解しやすいような環境設定（構造化）をさらに進める余地がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		おやつや食事後の清掃・消毒を徹底し、清潔な環境維持に努めている。	建物の老朽化に伴い、良好な環境を維持するため、職員によるこまめな清掃・日常的なメンテナンスの実施が必要である。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		静養室を完備し、体調不良やパニック時、あるいは学習などの個別活動が必要な際に、別室へ移動できる環境を整えている。	静養室の使用中の動線の確保に配慮するとともに、他の利用者が利用を希望された場合の対応手順の整備が必要である。	
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		行事や日々の担当を明確にし、全員が業務に携わっている。些細なことも報告・相談し、皆で考える体制ができています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		送迎時間の希望や支援内容について、保護者や相談支援内容について、保護者や相談支援員と連携して柔軟に対応している		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティング等を通じて、職員の悩みやストレスを相談・共有で環境を構築している		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		評価結果適切に把握し、日々の業務改善につなげている		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		パソコンを用いた研修など、職員の質の向上に向けた機会を確保している	資料を読み返す余裕が持てるような工夫や、新人職員への研修実施タイミングの最適化が挙げられる	
適切 な 支 持	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページで確認できるようにしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		面談や送迎時の情報共有、本人への聞き取りを通じてニーズを把握し、課題を分析した上で児童発達支援計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者だけでなく、職員がケース会議等を通じて情報共有と共通理解を図り、児童発達支援計画の検討を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールを用いたアセスメントに加え、日々の行動観察や記録等によるインフォーマルな評価を行い、こどもの適応行動の状況を継続的に把握している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人・家族・行動支援・地域連携を踏まえ、項目を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムの立案をチームで行っている。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		いろんな職員で内容に変化をまたせる工夫を行い、一方であえて固定し見直しを建てられる工夫も行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		本人の状況に応じ、個別活動と集団活動を組み合わせ支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝と昼の2回ミーティングを行い、その日の役割分担や、内容の確認、共有事項の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後には、LINE WORKSを活用して職員間で情報共有と振り返りを行い、その日の支援内容や気付いた点を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個人記録を記入を徹底し、支援の改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを適切に判断している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		集団レク等を通じ、社会性と身体制御を同時に学べるよう構成を工夫しています。自由遊び時も職員の適切な介入により、遊びを他者交流や学びの場へと繋げ、5領域を相互に関連させた総合的な支援を実践しています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		面談等で、言葉での表現が難しい場合でも、絵カードや写真などを用いて本人の希望を確認しています。本人が納得して「自分で選ぶ」経験を積めるよう、個々の特性に合わせた提示方法を工夫し、自己決定する力の育成に努めています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議等には、本人の状況をよく理解している者が参加している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と必要に応じて連携を図り、情報共有や協議を行いながら、支援体制の構築に努めている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校とは行事予定や下校時刻を事前に共有し、正確な送迎と支援に繋がっています。日々の送迎時にも担任等と密に情報共有を行い、体調変化や緊急時には迅速に連絡を取り合える協力体制を維持しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		相談支援事業所を窓口として、就学前に利用していた各事業所や園との間で支援内容の引き継ぎや情報共有を丁寧に行っています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		相談支援事業所を通じて移行先との情報共有を図るとともに、保護者様の要望に基づき、支援内容をまとめた書類を作成・提供しています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		地域の児童発達支援センターと連携を図り、必要に応じて助言や支援に関する意見を受ける体制を整えている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			感染症流行以降、地域との交流機会が減少し、停滞している状況にある。は地域とのつながりを再構築し、確保していくことが課題である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		富里市自立支援協議会に参加し、教育・療育研究部会に所属しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や引き渡し時、連絡帳を通じて日頃から保護者と情報共有を行い、こどもの発達状況や課題について共通理解を図っている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			感染症流行以降、日常の保育を優先しており、提供が十分に実施できていない状況にある。今後の課題として取り組んでいく。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や変更時に、運営規程や支援プログラム、利用者負担等について丁寧に読み上げて説明している。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画作成時に保護者や本人の意向を絵カード等を用いて確認している		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		児童発達支援計画を示しながら、送迎時や引き渡し時に支援内容の説明を行い、保護者から同意を得ている。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に保護者の希望を確認し、相談の機会を設け、面談や必要な助言・支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○		感染症流行前は保護者会等を通じて交流の機会を設けていたが、現在は実施できておらず、今後の課題となっている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談窓口を設けて体制を整備し、保護者等に周知するとともに、相談や申入れがあった際には迅速かつ適切に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		マチコミを活用し、保護者に登録いただいた上で、活動報告や行事予定等の情報を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いに十分考慮して運営している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		掲示物の活用やジェスチャー等を用い、お子様や保護者との意思疎通や情報伝達に配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域との関わりは持っているものの、住民を招くような行事の企画・実施には至っておらず、今後の課題となっている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを策定し職員への周知と訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、非常災害時・感染症に備えた訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		健康調査票の記入を通じて状況を把握するとともに、てんかん発作時の対応等について保護者と事前に打ち合わせを行い、確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		対象者を一覧化し、目に見える場所に掲示するなどの管理を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき管理と支援を適切に行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取り組みについて発信を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットについては、LINE WORKSを活用して事業所内で共有し、再発防止に向けた方策を検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		職員の研修機会を確保して、受講できない職員に対しては、電卓研修も行っている。	新規採用職員を含め全職員が継続的に受講できる体制を維持する事が課題。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束適正委員会を設置し方針を決定し、事前に保護者へ説明をし了解を得るようにしている。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	在宅介護支援 つくしんぼ【児童発達支援事業】		
○保護者評価実施期間	2026年3月2日		2026年3月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2026年3月2日		2026年3月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境・支援の工夫	玩具ごとに遊ぶ場所を離したり、個別の静養室を確保したりすることで、お子様の状態(集中・休息・パニック時など)に合わせた柔軟な居場所づくりを行っています。	専門性の深化: 今後は標準化されたアセスメントツールの活用をさらに深め、より客観的な分析に基づいた、質の高い児童発達支援計画の作成を強化します。
2	情報共有の迅速化	LINE Works等のデジタルツールを活用し、日々の活動内容や様子を迅速に保護者へ共有。職員間でもリアルタイムで情報連携し、一貫した支援を徹底しています。	構造化の追求: 限られたスペースをより有効に活用するため、お子様が視覚的に「次に何をすべきか」をより理解しやすくなるような、環境の構造化をさらに進めます。
3	安全・衛生管理	食物アレルギー対象者の可視化や、食事後の清掃・消毒をルーチン化。清潔で安心できる環境を維持しており、保護者アンケートでも全項目で高い満足度をいただいています。	

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の停滞: 新型コロナウイルス流行以降、感染症対策を優先した結果、地域住民との交流や行事への招待が制限され、以前のような開かれた運営が難しくなっていた。		
2	交流機会の不足: 感染症対策やプライバシー配慮の観点から、保護者同士が対面で交流する機会(保護者会等)の提供を控えていた経緯がある。		
3	物理的制約: 建物の構造上、雨天時や利用児童が集中する時間帯には、室内スペースの確保に限界が生じやすい。		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	在宅介護支援 つくしんぼ【児童発達支援事業】
------	------------------------

公表日 2026年 3月 31日

利用児童数 2026年 3月 2日

回収数 1

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。		100%				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。				100%		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%					
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。				100%		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。			100%			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100%					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%			100%		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			100%			
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	100%					

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。				100%		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	100%					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	100%					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。				100%		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	100%					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	100%					
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		在宅介護支援 つくしんぼ【児童発達支援事業】				公表日	2026年 3月 31日
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		玩具ごとに遊ぶ場所を離すなどの工夫をしている。また、室内だけでなく外で遊べる場を設けることで、スペースの制約をカバーしている。	人数が多い日や雨の日などは、室内が狭いと感じることがある。	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員が不足する際は、他部署から応援を受ける体制を整えている。	子どもの人数や状態に対し、さらに目の行き届いた支援ができるよう、人員配置の充実に努める必要がある。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		トイレや手洗い場を使いやすく工夫し、視覚的支援（掲示等）も取り入れている。活動内容に応じて室内と外遊びに分かれることで、個々の要望に応えている。	片付けの際、子どもがより理解しやすいような環境設定（構造化）をさらに進める余地がある。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		おやつや食事後の清掃・消毒を徹底し、清潔な環境維持に努めている。	建物の老朽化に伴い、良好な環境を維持するため、職員によるこまめな清掃・日常的なメンテナンスの実施が必要である。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		静養室を完備し、体調不良やパニック時、あるいは学習などの個別活動が必要な際に、別室へ移動できる環境を整えている。	静養室の使用中の動線の確保に配慮するとともに、他の利用者が利用を希望された場合の対応手順の整備が必要である。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		行事や日々の担当を明確にし、全員が業務に携わっている。些細なことも報告・相談し、皆で考える体制ができている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		送迎時間の希望や支援内容について、保護者や相談支援内容について、保護者や相談支援員と連携して柔軟に対応している		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティング等を通じて、職員の悩みやストレスを相談・共有で環境を構築している		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		評価結果適切に把握し、日々の業務改善につなげている		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		パソコンを用いた研修など、職員の質の向上に向けた機会を確保している	資料を読み返す余裕が持てるような工夫や、新人職員への研修実施タイミングの最適化が挙げられる	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページで確認できるようにしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		面談や送迎時の情報共有、本人への聞き取りを通じてニーズを把握し、課題を分析した上で児童発達支援計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者だけでなく、職員がケース会議等を通じて情報共有と共通理解を図り、児童発達支援計画の検討を行っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		LINEWorks等のデジタルツールを活用し職員感の共有を徹底している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールを用いたアセスメントに加え、日々の行動観察や記録等によるインフォーマルな評価を行い、こどもの適応行動の状況を継続的に把握している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人・家族・行動支援・地域連携を踏まえ、項目を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムの立案をチームで行っている。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		いろんな職員で内容に変化をまたせる工夫を行い、一方でえて固定し見直しを建てられる工夫もやっている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		本人の状況に応じ、個別活動と集団活動を組み合わせる支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝と昼の2回ミーティングを行い、その日の役割分担や、内容の確認、共有事項の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後には、LINE WORKSを活用して職員間で情報共有と振り返りを行い、その日の支援内容や気付いた点を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個人記録を記入を徹底し、支援の改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを適切に判断している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議等には、本人の状況をよく理解している者が参加している	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と必要に応じて連携を図り、情報共有や協議を行いながら、支援体制の構築に努めている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			現時点では併行利用や移行に関する具体的な実績はないが、今後の実施に向けて体制整備を進めている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		小学校や特別支援学校等へ適切な情報提供を行っている。また必要であれば保護者を通じてモニタリングも提供している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		地域の児童発達支援センターと連携を図り、必要に応じて助言や支援に関する意見を受ける体制を整えている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			感染症流行以降、地域との交流機会が減少し、停滞している状況にある。は地域とのつながりを再構築し、確保していくことが課題である。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や引き渡し時、連絡帳を通じて日頃から保護者と情報共有を行い、こどもの発達状況や課題について共通理解を図っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			感染症流行以降、日常の保育を優先しており、提供が十分に実施できていない状況にある。今後の課題として取り組んでいく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や変更時に、運営規程や支援プログラム、利用者負担等について丁寧に読み上げて説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画作成時に保護者や本人の意向を絵カード等を用いて確認している	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		児童発達支援計画を示しながら、送迎時や引き渡し時に支援内容の説明を行い、保護者から同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に保護者の希望を確認し、相談の機会を設け、面談や必要な助言・支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		感染症流行前は保護者会等を通じて交流の機会を設けていたが、現在は実施できておらず、今後の課題となっている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談窓口を設けて体制を整備し、保護者等に周知するとともに、相談や申入れがあった際には迅速かつ適切に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		マチコミを活用し、保護者に登録いただいた上で、活動報告や行事予定等の情報を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いに十分考慮して運営している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		掲示物の活用やジェスチャー等を用い、お子様や保護者との意思疎通や情報伝達に配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域との関わりは持っているものの、住民を招くような行事の企画・実施には至っておらず、今後の課題となっている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを策定し職員への周知と訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、非常災害時・感染症に備えた訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		健康調査票の記入を通じて状況を把握するとともに、てんかん発作時の対応等について保護者と事前に打ち合わせを行い、確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		対象者を一覧化し、目に見える場所に掲示するなどの管理を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき管理と支援を適切に行なっている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取り組みについて発信を行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットについては、LINE WORKSを活用して事業所内で共有し、再発防止に向けた方策を検討している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		職員の研修機会を確保して、受講できない職員に対しては、電卓研修も行っている。	新規採用職員を含め全職員が継続的に受講できる体制を維持する事が課題。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束適正委員会を設置し方針を決定し、事前に保護者へ説明をし了解を得ている。		